

TOPICS

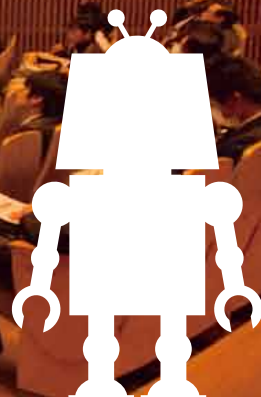
-トピックス-

イベントレポート

先進的介護の北九州モデルの実現に向けて

# 北九州市 介護ロボット セミナー

in 北九州市ウェルとばた



「人とテクノロジーが創る  
介護現場のイノベーション」

戸畑市民会館(ウェルとばた)で開催された北九州市介護ロボットセミナー。介護ロボットの開発と普及に関する国の取り組みや、北九州市の目指す「先進的介護の北九州モデル」についての説明、実証から見てきた介護ロボットの有効性やこれからの介護現場に求められる働き方改革などについて、実証に携わった施設職員を交えたパネルディスカッションが行われました。ここでは、そのイベントの内容をご紹介します。



セミナー会場入り口

主催：北九州市 後援：公益社団法人 北九州高齢者福祉事業協会  
取材協力：北九州市 保健福祉局 先進的介護システム推進室

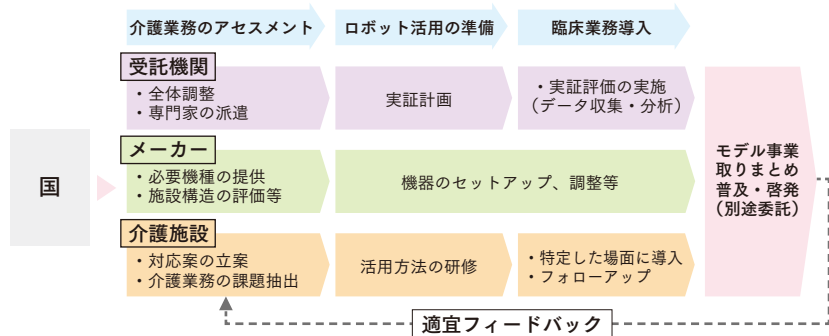
先進的介護の  
北九州モデルの実現に向けて

**北九州市  
介護ロボットセミナー**  
in 北九州市ウエルとばた  
12/18 TUE

人とテクノロジーが創る  
介護現場のイノベーション

(図1) 介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業の流れ

厚生労働省 老健局 介護ロボット開発・普及推進室 資料より



(図2) 介護ロボットの例

厚生労働省 老健局  
介護ロボット開発・普及推進室 資料より



**介護ロボットの開発と普及のための取り組み**

厚生労働省老健局介護ロボット開発普及推進室介護ロボット開発調整官補佐の東祐二氏による基調講演では、介護ロボットの定義の説明からはじまり、ロボットの定義としては、「情報を感知し」「判断し」「動作する」の3つを有し知能化したシステムであり、ロボット技術が応用され利用者の自立支援や介護者の負担の軽減に役立つ介護機器と説明されました。具体例として、移乗支援、移動支援、排泄支援、見守りなどの開発されている介護ロボットの紹介がありました(図2)。介護ロボットを活用した介護技術開発支援モデル事業ということで、



厚生労働省 老健局  
介護ロボット開発・普及推進室  
介護ロボット開発調整官補佐  
東 祐二氏

図1の様に介護ロボット開発支援の流れの解説や、介護ロボットの導入支援及び導入効果の実証研究事業についても説明されました。この実証事業では、プロジェクト担当者や現場で実際に働く介護スタッフが導入前、期間中、導入後における実証記録や、実証後にもアンケート調査を行い、検証を行っていくとの事。具体的な効果として、見守り機器導入による、「入所者に対する訪問回数の減少」「ヒヤリハット・介護事故件数の減少」、移乗介助機器導入による「介護者の身体的負担の軽減」などが挙げられました。委託機関、受託機関、介護施設が協力し、実証を重ねる事で、より効果的な介護ロボット開発と、活用できる環境の実現を目指しているということでした。

**北九州市の目指す  
先進的介護について**



北九州市保健福祉局  
先進的介護システム推進室室長  
清田 啓子氏

北九州市保健福祉局先進的介護システム推進室室長の清田啓子氏より、「北九州市の目指す先進的介護」と題し、深刻な介護人手不足問題を中心に説明がありました。介護職員と介護ロボットを使って、新たな介護現場を作っていくこと(介護イノベーション)を北九州モデルとして進めて行くということでした。

介護ロボットの検証について、5つの協力施設特別養護老人ホームで行った結果をご紹介されました。実際に現場に入り、1日の作業内訳の分析を行った結果は図3の通りとなっています。

このような作業を効率化し生産性の向上を目指す「北九州モデル」は、①ロボットを使いこなす担い手づくり②新たな担い手による新しい介護現場づくり③人と介護ロボットの共存による生産性向上の3つを取組方針としています。①においては介護ロボットマスター育成講習等も行っているとの事。実証結果では、見守り機器導入により、入居者の様子が手元のタブレットでわかるため、不必要な「居室の見

守りが減少」といった介護職員の負担軽減や、見守り時間が減った分、入居者の「転倒リスクの低減」「寝具の手直し」の回数が増えたなど介護の質の向上もみられたと説明されました。その他、インカムの導入により、作業中に意思疎通ができ、看護師やリーダーを探す時間が減少。入居者との会話時間が増加。更に緊急時の迅速な対応が可能になったと説明されました。

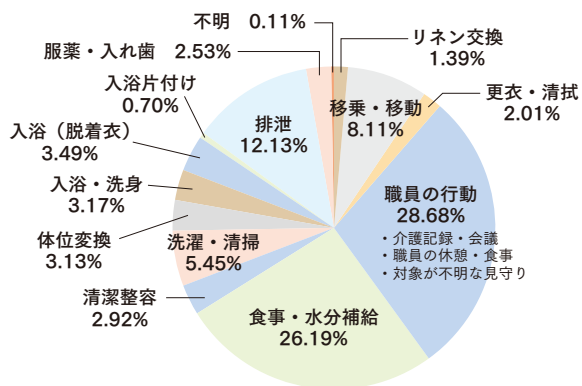
**介護現場の生産性向上  
人と介護ロボットの共存  
に向けての取り組み**

最後は産業医科大学産業界連携科学研究所の准教授の泉博之氏がコーディネーターを務め、東祐二氏、清田啓子氏他、協会理事や公益財団法人北九州産業界学術推進機構介護ロボット技術グループ長、特養の施設長など総勢7名の参加者によるパネルディスカッションが行われました。



パネルディスカッションの様子

(図3) 一連の介護作業に沿って行った作業分類の結果  
(1日の作業内訳) 北九州市 保健福祉局 資料より



社会福祉法人孝徳会  
サポートセンター門司施設長  
中村 順子氏

社会福祉法人孝徳会「サポートセンター門司」施設長の中村順子氏はインカムと記録システムの実証について実際の現場視点で分り易

く説明されました。インカム導入により、ずり落ち等の時にすぐに他の職員を呼べるようになったことや、記録システムについては、たとえば、排泄の状態などを確認する場合に、紙ベースの場合は、資料のある所まで見に行かなくてはならないが、システムならどこからでも見ることができ、記録もできる。さらにデータ化することもできるといった例を紹介されました。

介護現場の生産性とは、今いる人手で時間と心の余裕を作って、より質の高いサービスを提供するということと、スタッフのやりがいがあることだと話されました。

その他、各参加者より、介護現場の生産性向上や介護の質の向上について、それに伴う人材確保・人材育成についてなど、様々な説明や紹介がありました。

人とテクノロジーが創る入居者の「ゆとりある暮らし」の早急な実現が求められています。

セミナーは、介護現場のイノベーションや生産性向上を目指す上で、とても充実した内容でした。